

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）  
セッション討議内容の記録

セッション名：交通事故（2）	
日付：11月 3日（月）曜日、セッション時間：13：15～14：45	
司会者名（所属）：廣島康裕（豊橋技術科学大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>本セッションでは交通事故分析・交通安全対策評価に関連する3編の発表があったが、共通の論点が少ないと判断し、それぞれごとに討議を行った。</p> <p>(290) Terrance M. Rengarasu, Toru Hagiwara, Masayuki Hirasawa: “Effects of Simple and Combination Variables on Traffic Accidents Using Homogeneous Road Segments”</p> <p>(291): 宮本賢治, 土井健司, 高井健一, 山下大輔: “事故多発多車線区間における危険挙動防止策検討のためのシミュレーション分析”</p> <p>(292): 野呂美紗子, 原文宏, 萩原亨: “エゾシカの生態からみた事故発生地点の周辺環境と事故発生条件”:</p>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属): (290) Rengarasu Terrance (北海道大学)</p> <p>「追突事故を除外する理由は何か」、「固定長ではなく均質な道路区間を分析単位とすると事故件数が少ない区間が生じるが、それは問題ないのか」、「道路の幾何条件のみでなく速度変動などの交通条件の違いによる影響を考慮すべきではないか」、「事故率に対する説明要因としての合成変数の影響の仕方をどのように解釈するか」、「縦断線形の影響を考慮できる説明変数を導入する必要があるのではないか」といった点に関して質疑がなされた。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属): (291) 宮本賢治 (香川大学)</p> <p>「この研究は各交通安全対策案の下での運転挙動やドライバー意識の違いを分析しているが、危険事象に対するドライバーの認知、判断や、それに基づく運転操作の分析・評価をしていないのではないか」、「覚醒水準、車両ブレ位置などの基本用語の定義」、「ドライビングシミュレータを用いた実験のリアリティの程度と分析結果の有効性」、「運転挙動における個人差の取り扱いの仕方」、「実験対象となった道路環境条件に対する被験者の知識の有無」といった点に関して質疑がなされた。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属): (292) 野呂美紗子 (社団法人 北海道開発技術センター)</p> <p>「道路区間を分析単位とするならば、影響要因値の算出において円バッファではなく長方形バッファを採用した方が良くないか」、「分析結果をどのように安全対策に役立てるのか」、「事故データのみを用いているが、エゾシカの行動の追跡も必要ではないか」、「人間と動物の重要度の違いをどのように考えるか」、「事故発生には道路の幾何構造特性などの影響もあるのではないか」といった点に関して質疑がなされた。</p>